

「ATAハイブリッド構法」の提供元である(株)ATA 大空間木造膜構造研究室(所在地:富山県滑川市)は、10月1日より、ATAパック型建築プラン「ATAIpack PLAN」の提供を開始。価格の目安を分かりやすく紹介できるパッケージプランの展開で、更なる提携プレカット工場や、ビルドパートナーの拡大を図る。

都内でセミナーを開催

12月17日(火)には、東京国際フォーラムにおいて、「新シリーズ ATAハイブリッド構法セミナー」を開催する。

講演のテーマは以下の4つ。

- ① ATAIck PLAN
- ② ATAパック型建築プラン
- ③ ビルドパートナー提携
- ④ 施工事例

「ATAIck PLAN」は、近年、注目を集めている新開発のエンジニアードウッドのCLT(直交集成板)をATAハイブリッド構法に採用した新しい取組み。コストダウンを可能とする

ATA がパック型建築プランを開始

見積りのムダを徹底的に排した合理化プランが登場

(株)ATA 大空間木造膜構造研究室 (富山県滑川市)



ATAハイブリッドトラスを構成するクレビス

CLTパネルの使い方や一般プレカット工場での加工方法、坪単価18・8万円の内訳、CLT補助金の有効な活用方法などについて発表する。また、「ATAパック型建築プラン」「ビルドパートナー提携の仕組み」の詳細について紹介する。併せて建築計画工房一級建築士事務所佐藤代表(一級建築士)が、大型体育館や認定こども園など具体的な施工事例を交えて講演する。

パック型建築プランとは

ATAハイブリッド構法は、中大規模木造建築物での展開を

目指して2015年より活動開始。活動から約4年ほどが経過した2019年末で累計90棟ほどの実績がある。採用された建築物としては、商業施設、クリニック、リハビリセンター、ヘリコプター格納庫、倉庫、工場、食品加工センター、住宅など多くの分野に及ぶ。

これまででは、鉄骨造などの木造以外の構法で計画されていた建築物が、ATAハイブリッド構法に置き換えられて設計されるという事例が多い。主な理由として4つが挙げられる。

- ① スパン(柱間距離) 最小7mから最大40mまでの対応が可能であること
- ② 全ての構造材を一般流通材を使って加工することが可能であること
- ③ 鉄骨造よりも基礎のコンクリートの量を減らすことができることから建設費の総額を鉄骨造よりも減らすことができた事例が多いこと
- ④ 見積り段階から鉄骨造と価格の比較をできるサポートシステムが充実していること